市長政策室
実施プラン2014

「道内連携」「創造都市」「エネルギー政策」を拓く

平成26年4月策定

上田市政

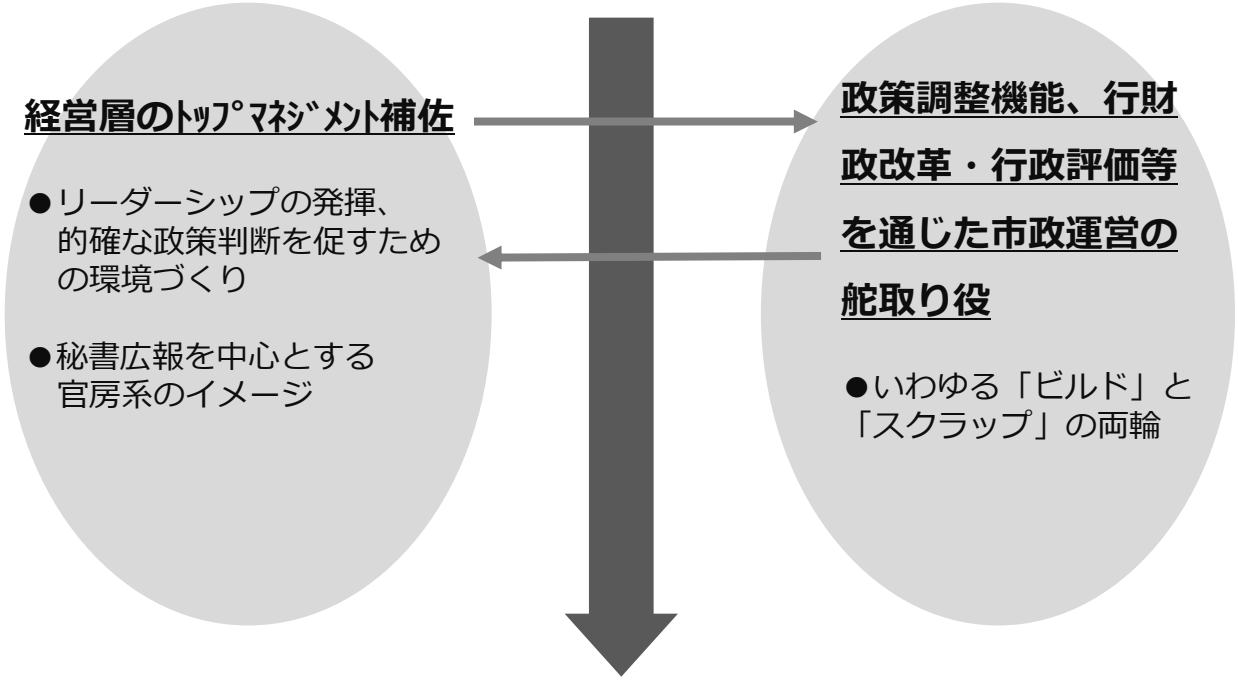
３期目の総仕上げへ

SAPPORO

Ⅰ　市長政策室の使命

市長政策室は、秘書・広報機能などにより市長・副市長のトップマネジメントを補佐するとともに、政策調整機能、行財政改革・行政評価等を通じた市政運営の舵取り役を担うことで、札幌市まちづくり戦略ビジョンが掲げる都市像の実現を全庁的にリードしながら、パラダイムの転換を成し遂げていくために自らを変革し続け、不断の市役所改革を推進していくことに全力を尽くします。

【基本的な考え方】



➢ 市長政策室がエンジンとなった「戦略ビジョンの推進」「パラダイムシフトの実現」

➢➢ そのためには自らが変わり続ける組織に（個々の意識改革⇒組織力の底上げ）

➢➢➢ そして、市民から信頼される、期待される市役所に

Ⅱ　目標・運営方針

市長政策室を構成する一人ひとりが意識改革を徹底し、組織力を底上げする６つの力を強化します。

1 「情報力」と「洞察力」に磨きを掛ける

経営層の問題意識、新たな政策課題を的確に捉えながら、「インテリジェンス（知）」と「インフォメーション（情報）」を絶えず集積・発信します。

求められる人材像

➢➢　日々の気づきを重視し、関係部局へ積極的に足を運び、生きた情報を集め・発信する「ハブ（hub）」的な人材

2 「構想力」と「創造力」に磨きを掛ける

前例にとらわれない柔軟な発想で、道内連携、創造都市、エネルギー政策等の組織横断的なテーマに果敢に取り組みます。

求められる人材像

➢➢　自己研鑽に努め、関係部局と議論を深めながら、大局的な見地で業務を遂行する「（企画・広報等）○○マン」「○○のキーパーソン」として認知される人材

3 「調整力」と「実行力」に磨きを掛ける

政策立案、業務改善等を通じて関係部局との連携を強化し、「○○（政策・改革・秘書・広報）×○○（関係部局）」という掛け合わせにより組織に化学反応を起こします。

求められる人材像

➢➢　庁内のタテ・ヨコ・ナナメを有機的につなぎ、市民・企業をも巻き込んでいく「組織の火付け役」となる人材

Ⅲ　平成２６年度　重点取組項目

1　「情報力」と「洞察力」の徹底

～市民ニーズを的確に捉えた情報発信を拡充し、市民と共有できる「市政」を実現します

経営層の問題意識をはじめ、市民意見から各種統計データまでを的確に捉え、市民自治の前提となる情報発信を拡充し、市民と共有できる「市政」を実現します。

（1）市長・副市長の秘書機能の強化

上田市政３期目の総仕上げに向けて、「公務能率の確保」や「選択と集中」といった観点から、市長・副市長の日程を総合的に組み立て、その動きをスタッフが一丸となってサポートします。また、市長・副市長のメッセージ、市政のタイムリーな情報等を適宜、挨拶文等に反映していきます。

【主な事業（事務）】

●市長・副市長室の効果的・効率的運営

⇒日程調整　　挨拶文等の調整　　市長・副市長の出張等の調整
　市長・副市長の健康管理、執務環境確保

（2）庁内のシンクタンクとしての機能を発揮

本市を取り巻く社会経済情勢の変化にスピード感を持って対応するため、都市経営的な視点での調査・研究を進めるとともに、統計データの積極的な活用を図り、経営層の政策判断や庁内各部局の施策立案に貢献する政策提言を行うなど、庁内のシンクタンクとしての機能を発揮します。

【主な事業】

●まちづくり基礎調査・研究

⇒①先行的・創造的、②総合的・横断的、③短期・緊急性、④都市経営的、⑤トップマネジメントの5つの視点に立った調査・研究。経営層の政策判断や戦略ビジョンの推進に活用。
（成果指標）戦略ビジョンの推進に向けた組織横断的な検討の中で活用4件

●統計データの活用

⇒統計調査の集計結果・業務統計（一次統計）を迅速かつわかりやすく提供
⇒一次統計を加工・分析した市民経済計算や「札幌市の地域構造」の作成・活用

●大学の知見の活用

⇒複雑・多様化するまちづくりの様々な課題の解決を図るため、大学が有する知見を政策課題の解決等に活用。
・大学提案型共同研究事業　　（成果指標）大学提案型共同研究事業の採択件数6件
・大学の知見を生かした都市の魅力創造事業（例:プロジェクションマッピング）
・札幌市立大学COC事業との連携協力

（3）市民意見の積極的な収集と活用を推進

市政に対する市民参加の機会を充実させるため、より広く多様な市民意見の収集に努めるとともに、収集した市民意見を活用し、札幌市が発信する情報の質の向上を図ります。また、寄せられた市民の声を正確かつ迅速に担当部局へ伝え、適正かつ誠実に対応できるよう支援していくとともに、より多くの市民の声が市政に反映されるよう取り組みます。

【主な事業】

●市民意見の収集と市政への反映や広報への活用

⇒討論型世論調査（平成25年度実施）の結果分析と、検証結果の庁内共有

⇒市民意見政策反映検討会議のさらなる機能強化と、反映状況の市民への情報提供

⇒市民の声を分析・活用し、市民が必要とする情報が適時に「伝わる」広報を目指す取組

●市民の声に適正かつ誠実に対応できるよう担当部局を支援

⇒研修の実施や助言・調整

⇒声の傾向について情報提供

（4）伝わる広報を推進し、情報発信力を向上

市民との情報共有を進めるため、「広く知らせる」広報に加え、より「伝わる」広報を目指し、積極的な広報に取り組みます。特に、市民が必要な情報を得やすいよう、市役所ホームページのさらなる充実に取り組みます。

また、市政に関する情報収集能力を高めることで、効果的な広報の実現を図り、市政の重要施策については、より重点的な広報を展開するとともに、市役所全体の広報活動をより一層活性化させるため、各局区が行う広報活動への支援や職員研修などを通じ、庁内における広報意識のさらなる醸成に取り組みます。

【主な事業】

●積極的な広報

⇒パブリシティの活用や民間の発想・手法を参考とした積極的な広報の実施

●市役所ホームページのさらなる充実

⇒利用者アクセス状況や使い勝手などの分析に基づく使いやすいホームページへの改善と、ホームページの特性を活かした情報発信のための各局区への支援・連携の強化

⇒ウェブアクセシビリティ（※）の向上に向けた取組（JIS規格AA準拠など）

●効果的かつ重点的な広報

⇒各局区からの積極的な情報収集と各局区との連携による効果的な広報

⇒国際芸術祭や道内連携など市政の重要施策に関する関係部局と連携した重点的な広報

●庁内の広報意識の醸成

⇒広報に関する実践的な研修の実施と、職員向け広報の手引き「広報のススメ」の改善

（※）ホームページを利用するすべての人が、年齢や身体的制約、利用環境等に関係なく、ホームページ上で提供されている情報に問題なくアクセスし、利用できる状態

2　「構想力」と「創造力」の実践

～札幌･北海道の持続的な発展を描き、新たな価値の創造にチャレンジします

まちづくり戦略ビジョンをはじめ、道内連携、創造都市、エネルギー政策等の組織横断的な課題について、札幌・北海道の持続的な発展を見据えた新たな価値を創造すべく、庁内を積極的にリードします。

（1）まちづくり戦略ビジョンに掲げる取組を積極的に推進

まちづくり戦略ビジョンに掲げる都市像の実現に向けて、「暮らし・コミュニティ」「産業・活力」「低炭素社会・エネルギー転換」の３つのテーマ、及びこれらを支える「都市空間の創造」に沿った新たな施策を庁内各部局とともに創り上げ、重点的に展開します。

【主な事業】

●組織横断的な取組の推進

⇒地域マネジメントの推進に向けた総合的な支援策の検討

⇒高齢者の活躍機会の創出･拡充

⇒女性の活躍機会の創出･拡充

●拠点のまちづくりの推進

⇒地域交流拠点や高次機能交流拠点の整備に関する基本的な方向性を検討

⇒検討結果を都市計画マスタープランに反映

●まちづくり戦略ビジョンの進捗管理

⇒戦略ビジョンに掲げる取組の進捗状況を確認し、成果指標の数値を公表

（成果指標）進捗状況のホームページでの公開　平成26年10月頃

（2）市有建築物の配置等に関する基本方針の策定

平成25年度に設置した、市有建築物のあり方検討委員会（以下「検討委員会」という）の提言を踏まえて、将来の人口構造の変化に応じた新たなまちづくりの観点から、効果的かつ効率的な市有建築物のあり方について調査・検討を行います。

【主な事業】

●市有建築物の配置等に関する基本方針の策定に向けた取り組み

⇒施設の複合化モデルプランの作成、数値目標等の検討、ワークショップの開催

（3）創造都市さっぽろの推進

市民一人ひとりの新たな発想や創意工夫で自らの暮らしを豊かにしていくことを通じて、新しい文化を生み、経済を育んでいくまちを目指す「創造都市さっぽろ」の取組を官民挙げて推進するとともに、象徴的イベントである札幌国際芸術祭と連携した取組みを庁内各部局とともに強力に推進していきます。また、札幌ならではのライフスタイルの魅力を、市民が感じ、発信していく仕組みづくりを進めるため、「笑顔」をキーワードにしたシティプロモートの取組を進めていきます。

【主な事業】

●ユネスコ創造都市ネットワーク関連の国際会議を開催（平成26年8月）
⇒ネットワーク加盟都市を招いた国際会議、地元企業とのビジネスマッチング事業の実施

●メディアアーツシンボルイベントの開催（平成26年11月）
⇒都心部で、ITなどの先端技術を活用した芸術表現である「メディアアーツ」イベントを開催

●地下歩行空間北2条広場メディア空間の運営
⇒同広場における映像一体型イベントの実施、市内映像系教育機関等を対象としたメディア空間活用支援　（成果指標）アワード応募件数200件

●シティプロモートの推進
⇒サッポロスマイルロゴマークの周知、市民による札幌の魅力発信を促進するためのワークショップの実施（成果指標）Facebookいいね10,000件

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization　SAPPORO City of Media Arts Designated UNESCO Creative City in 2013

●国際芸術祭と連携したシティプロモートの実施
⇒7月から開催される札幌国際芸術祭2014と連携して札幌の魅力を発信

（4）総合的なエネルギー政策の推進

低炭素社会と脱原発依存社会を目指した持続可能なまちづくりを進め、世界に誇れる先進的な環境首都を実現するため、市民・市職員が持つ知識・情報・創造性などを最大限に活用しながら、中長期的な観点からエネルギー転換と有効利用を図る方策を検討し、エネルギー政策を進めます。

【主な事業】

●市民・事業者と共に取り組む中長期的なエネルギー政策の検討・推進
⇒札幌市エネルギービジョンの策定（平成26年7月）、市民向けパンフレットの作成

●半世紀先の札幌を見据えたエネルギーの将来構想の策定
⇒（仮称）エネルギーの総合的な施策大綱の策定（平成27年3月）

（5）北海道全体の活性化に向けた取組の推進

「北海道の発展なくして札幌の発展はない」との考え方のもと、札幌の都市機能と道内各地域の特色ある資源を相互に生かし、新たな付加価値を創造するなど、広く道内市町村との連携を進めます。

【主な事業】

●道内市町村等との意見交換の実施
⇒札幌広域圏首長懇談会（石狩管内8市町村）、道内中核都市市長会議（道内6都市）等の開催
⇒ぐるっと地域訪問（振興局や道内各地へのネットワークを持つ民間団体を訪問）の実施

●札幌の都市機能の活用促進
⇒札幌活用促進ゼミの開催、札幌☆取扱説明書の作成、フォトコンフェスタin札幌の開催

●北海道との連携
⇒知事・市長による「北海道・札幌市行政懇談会」や、道市の若手職員による「北海道・札幌市政策研究みらい会議」を通じ、より緊密な道市連携を推進

3　「調整力」と「実行力」の発揮

～パラダイムの転換に対応する新たな視点で政策調整・行財政改革に取り組みます

超高齢・人口減少、エネルギー転換など、パラダイムの転換が求められる課題に対応するため、新たな視点と価値観による行財政運営を構築するとともに、限りある経営資源の有効活用に徹します。

（1）政策調整機能の発揮

第3次札幌新まちづくり計画の総仕上げとまちづくり戦略ビジョンを推進する今後の中期的取組の検討を進め、市長・副市長がトップマネジメントをより一層発揮できるよう補佐し、総合的・戦略的な政策調整機能を発揮します。

【主な事業】

●第3次札幌新まちづくり計画の進捗管理

⇒進捗状況、評価・検証結果等を踏まえ、目標達成に向けて計画事業を着実に推進

●市長・副市長会議の開催

⇒市の重要施策に係る意思決定を円滑・的確に行うため、定期的（原則月2回）に開催

●国の施策および予算に関する要望

⇒札幌市重点要望、北海道開発予算について、国に対し積極的な要望活動を実施

●公有地、跡地等の利用調整

⇒全庁的な観点からの利活用方法の検討及び利活用に向けた部局間の調整

（2）市政の重要課題に対応するための組織体制の構築・組織運営

「まちづくり戦略ビジョン」における市政の重要課題、新たな行政課題等に的確に対応するため、より効果的・効率的な組織体制の構築を図ります。

また、「局区実施プラン」の実施や、市長協議における市長指示事項の進捗管理を通して、市役所におけるトップマネジメントの発揮や局区内のマネジメントの実践を行っていきながら、「局区実施プラン」の策定過程にさらに多くの局区の職員に関わってもらう手法の検討や職員間における共有化の推進を進めていきます。

【主な事業】

●時代に即した組織体制の構築

⇒区保健福祉部の機構改革

●局区実施プランの実施、進捗管理

⇒職員間における共有化推進の取組

（成果指標）

局区実施プランの職員の認知度・活用度（行財政改革職員アンケート）

・読んだことがある職員の割合

H26目標：90％以上（H25実績：70.5％）

・局区内の意識や目標の共有化に活用した職員の割合

H26目標：60％以上（H25実績44.8％）

（3）札幌市行財政改革推進プランの着実な推進

「札幌市行財政改革推進プラン」（平成23～26年度）に基づいた各局の取組状況の把握・検証を行い、より効果的な取組がなされるよう、必要な支援を行います。同時に、まちづくり戦略ビジョンを踏まえた、市役所を挙げた新たな行財政改革の取組に向けた情報収集、検討を進めていきます。

また、創造的で前向きな職場風土づくりの一環として、「元気の種コレクション（種コレ）」の10周年を記念し、これまで「種コレ」に携わった職員にも呼びかけ、業務改善事例の掘り起こしや参加を強化・推進します。さらに、道内自治体にも「種コレ」への参加を呼びかけ、独創的・先進的な事例を収集し、各自治体へ情報提供するとともに、優れた事例を「種コレ」での発表により、庁内での活用を促進します。

【主な事業】

●行財政改革の取組

⇒最終年度を迎えた行財政改革推進プランの推進

●創造的で前向きな職場風土づくり

⇒元気の種コレクションへの参加の推進と道内自治体との連携

（成果指標）

元気の種コレクションへの道内自治体の参加発表数

H26目標:3自治体以上 （H25実績:2自治体）

【再 掲】

（1）「札幌国際芸術祭2014」に関連する取組

●地下歩行空間北2条広場メディア空間でのアワード（表彰）実施

●国際芸術祭と連携したシティプロモートの実施

●国際芸術祭に関する関係部局と連携した重点的な広報

●大学の知見を生かした都市の魅力創造事業

（例：プロジェクションマッピング）

（2）「道内連携」に関連する取組

●札幌広域圏首長懇談会、道内中核都市市長会議の開催

●「ぐるっと地域訪問」の実施

●「さっぽろ活用促進ゼミ」の開催、「札幌☆取扱説明書」の作成、

●「フォトコンフェスタin札幌」の開催

●道内連携に関する関係部局と連携した重点的な広報

（3）企業・市民が自らまちづくりを進めるような取組

●拠点のまちづくりの推進

●市有建築物の配置等に関する基本方針の策定と普及・啓発